

令和2年度 学校教育自己診断 分析

生徒 (阪南高校に入ってよかった) 肯定率 78%

保護者 (阪南高校に入学させてよかった) 肯定率 91%

昨年度の結果と大きく変わってはいない。ただ、コロナ禍のため、行事などが中止または縮小されたことでの影響があり、学校生活を物足りないと感じている生徒がいることは予想される。今後は、ウィズコロナの事態のなか、感染防止に最大限配慮しつつ、阪南高校らしい取組みを継続していくことが大切である。

保護者 (学校は家庭への連絡や意思疎通をしっかりと行っている) 肯定率 77%

教職員 (必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている。 肯定率 89%

断続的に学校休校があるなか、ホームページの更新やメールマガジンの配信の回数が増えたことにより、昨年度よりも肯定率が増している。今後も保護者の方々としっかり連携していきたい。

(授業関連)

肯定率 生徒 70% 教職員 69% 保護者 61%

生徒のICT関連の肯定率は昨年度以上に高い。各教室へのプロジェクターの設置をすることが必要であり、「わかる授業」「できる授業」の確立をめざしたい。

(進路関連)

肯定率 生徒 76% 教職員 76% 保護者 59%

学校の進路指導は一定評価いただいている。ただ、コロナの影響で外部模試会場が少なく、3年生が受験会場の環境を経験することなく受験本番を迎えたことで、生徒や保護者の不安があったことは否めない。

(人権教育関連)

肯定率 生徒 77% 教職員 89% 保護者 67%

いじめについては、早期発見、早期対応を心掛けることを、教職員には徹底させた。今後も、生徒が安全で安心できる学校であるために人権教育を推進していきたい。